

平成 28 年度 大阪成蹊女子高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- ① **(女子教育の推進)** 本学園の建学の精神である「桃李不言下自成蹊」、「忠恕」の精神に基づき、社会に求められる「自立し、品格ある女性」を育てる女子教育を推進する学校
- ② **(キャリア教育の推進と人間力の育成)** キャリア教育を教育の柱として、女性として自主的に生きる力を育み、人間力を高めるために必要な資質・能力が育つ学校
- ③ **(国際教育の推進)** グローバル社会に求められる多文化共生のマインドと、必要な能力を高めるため、とりわけ「使える英語力」の育成を図るとともに国際教育を推進する学校
- ④ **(多様なコースで夢を実現)** 「キャリア進学」、「幼児教育」、「アート・イラスト・アニメーション」、「スポーツ」、「キャリア特進」の特色ある5コースにより、生徒の多様なニーズに応え、個々の生徒の夢を実現する学校
- ⑤ **(人権教育の推進、安全で安心な学校)** 教職員と生徒との信頼関係を築き、共生の観点を基本として豊かな人権感覚を育むとともに、生徒にとって、いじめのない安全で安心な学校

2 中期的目標

- ① 平成 26 年度から実施の「グローバルなキャリア教育」は、本校の最大の特色であり、その取組みを更に充実させる。また、グローバル時代の要請に応え、すべての教育活動の中に積極的に国際教育（国際理解教育）の観点を取り入れる他、海外研修・海外修学旅行の事前学習を更に充実させるとともに、海外留学生の積極的な受け入れを進める。**(グローバルなキャリア教育と国際教育の推進)**
- ② 本校の学びの目標である成蹊スタンダードを明確にし、その3ヵ年の教育目標の達成に向けた各教科の取組みを計画的に進める。また、生徒の学習意欲を高め、日々の教科指導を点検し充実させるなど、「わかる授業」の実践と学力の向上を図るとともに、生徒の達成感を育むことをねらいとして漢字検定・GTEC 検定・秘書検定の合格率の向上もめざす。**(学習指導の充実と学力の向上)**
- ③ 学園が提携したベルリッツ・ジャパンによる英会話講習、ALTの活用を進める。リスニング・スピーキングを重視する「使える英語力」の育成を積極的に進める。全教室に設置したロールスクリーンや配置した i-Pad、TVモニター、電子黒板等を活用した ICT 機器・視聴覚機器の活用を積極的に進める。**(使える英語教育の推進と ICT 機器の活用)**
- ④ 生徒の多様な進路選択を尊重しつつ、併設大学及び併設短大への内部進学者数の確保に努め、学園全体の発展を見据えた進路指導を推進する。内部進学率の目標を 60%とする。**(進路指導の充実と内部進学者の確保)**
- ⑤ 全教職員の共通理解の下、学校の方針として生活指導(服装指導・頭髮指導等を含む)の徹底を図る。特に生徒の自尊感情を醸成する「成蹊 pride」の趣旨を生徒・教員で共有し、その確立をめざす。**(生活指導の充実と自尊感情の醸成)**
- ⑥ 生徒の主体的な活動である生徒会活動及び部活動への参加を推奨し、自主性や課題解決力の育成を図る。また、運動部や音楽系などの部活動の更なる活躍をめざして、外部指導者の活用など、部活動の活性化に努める。**(部活動の活性化)**
- ⑦ 今後の公立中学生数の減少や、私立高校の授業料無償制度の見直し(平成 27 年度から3年間は継続、所得基準は見直し)、府立高校入試制度の変更(普通科は後期だけ)など様々な外部環境の変化に関わらず、常に生徒が集まる魅力ある学校をめざす。そのため、グローバルなキャリア教育の更なる充実を含めた学校力の向上と、募集広報活動の強化を両輪とした学校経営を促進する。**(学校力向上と募集広報活動の充実)**
- ⑧ 校長を中心として全教職員が一体となる学校運営に努め、「チーム成蹊」として学校組織力を更に強化する。とりわけ、平成 26 年度設置した主幹教諭・副主幹教諭を中心に各コースや分掌の長、いわゆるミドルリーダーが一定の権限と責任を有して、それぞれの役割を担い、円滑な学校運営に努める。**(全教職員が一体となった学校運営)**
- ⑨ 評価育成システムは、校長が進める学校経営に主体的に参画することを前提に、個々の目標設定を行い、校長の支援のもとで目標達成に向けた教員の取組みを評価し、教員のスキルアップを図る。**(評価制度の説明と教員のスキルアップ)**
- ⑩ 平成 28 年度より、普通科「キャリア進学コース」、「幼児教育コース」、「キャリア特進コース」、「スポーツコース」、美術科「アート・イラスト・アニメーションコース」の2学科5コースとなった。学びの専門性を高めた美術科の設置にともない、本校の2学科は更に充実した教育内容となるよう、全教職員が共通理解を深め、担当コースの教育力向上に向けて全力を尽くす。**(5コースの安定した学校経営)**

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

| 自己評価アンケートの結果と分析   | 学校評価委員会からの意見   |
|---|--|
| <p>○生徒アンケート結果 [平成 28 年 12 月実施分] (抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活が楽しく充実している」と回答した生徒は全体の 86%で例年どおりであった。</li> <li>・「所属するコースに満足している」という回答は、美術科が 91%で最も高い。また「キャリア進学」は 84%で昨年より 7%増加している。いずれも高水準であるがコース間の格差が今年は縮まっている。</li> <li>・学校行事に関するアンケートでは、「文化祭や体育祭などが楽しく行われている」とした生徒は全体の 75%で昨年と同様。特に、「スポーツ」は 93%で昨年以上に高くなる一方、「キャリア進学」では 71%で最も低い。コースの特性が現れている。</li> <li>・「この学校には他校にない特色がある」とした生徒は 83%で昨年以上に高くなっている。コース別では美術科 86%、「スポーツ」85%、「幼児教育」87%、「キャリア進学」79%、「キャリア特進」76%である。</li> <li>・コース別質問では、「キャリア進学」の「コースの進路指導は充実している」、「勉強合宿に満足している」が共に 80%。「幼児教育」の「ピアノ発表会、ミュージカルなどのコース行事に満足している」が 97%。「スポーツ」の「グラウンド・体育館等の施設に満足」が 93%。美術科の「美術の授業に満足」が 90%。「キャリア特進」の「勉強合宿などの取組みが充実している」が 88%と高い割合である。</li> <li>・肯定的回答が 50%を下回ったのは、唯一「生徒会活動に積極的に参加している」の 38%だけである。生徒会の活性化をめざす必要がある。</li> </ul> <p>○保護者アンケート結果 [平成 28 年 12 月実施分] (抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この学校には他校にない良さがある」は昨年より大幅に増えて 93%</li> </ul> | <p>第 1 回 平成 28 年 6 月 23 日 全委員出席</p> <p>○本年度教育方針について</p> <p>年度当初の職員会議に行った校長の平成 28 年度教育方針、「本校のめざす学校像」、「中・長期の教育目標」、「本年度の教育目標」について趣旨説明を行う。</p> <p>各委員の意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方針の「めざす学校」「中・長期の教育目標」は、学校の進む方向性が明確で、わかりやすい。この目標を全教員に十分説明し、共有化することが重要である。</li> <li>・校長の主導で管理運営規則及び、成績処理や進級に関する教務規定等の各種内規に時点修正を加え、校長のリーダーシップのもと組織力が十分に発揮されている。</li> <li>・教員評価の評価育成システムは、新着任の教員を含め、一定の周知が図られている。評価実施は、授業観察、生徒アンケート等も加えて円滑に進んでおり、組織力としての学校力全体の向上に結びついている。</li> <li>・組織体制として、主幹、副主幹等の中間管理職が主体的に校長の意向を踏まえ、自主的に管理できる能力は着実に高まっている。</li> <li>・平成 28 年度の入学者数は近年では過去最高となる 688 名に達した。生徒数の増大による校内の様々な課題に適切に対応し、学校教育力が低下しないよう取組む必要がある。</li> <li>・生徒募集について、今後の展望として 500 名以上の一定した入学者を集めることが、募集目標となっている。一方、教室数の制限はあるが学園のミッションとして、平成 29 年度の入学者目標は 550 名であり、更なる募集広報活動に努力と工夫が必要である。</li> </ul> <p>第 2 回 平成 29 年 3 月 15 日 全委員出席</p> <p>○国際教育の取組と次年度学習進度の遅い生徒への対応、学校評価アンケートの分析</p> <p>校長が進めるユネスコスクール加盟についての報告と、生徒・保護者の学校評価アンケート結果について分析を行い、次年度開講予定の 1 年生の補習授業である成蹊ゼミについて説明後、各委員に意見を求めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒及び保護者の評価アンケートでは、生徒・保護者とも「学校生活は楽しく、充実している」と高い評価であるが、主に学校生活・学校行事に関するものが特に高い。</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
| <p>に達した。特に、美術科では97%でたいへん高く、次いで「幼児教育」の95%、「キャリア特進」の92%、「キャリア進学」と「スポーツ」の91%。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「併設の短大・大学を有する総合学園の長所が生かされている」という回答は87%で、昨年より2%増で、ここ数年増加傾向にある。</li> <li>・「進路指導が充実している」は、昨年より4%増加して、全体で80%に達した。特に美術科が87%、「幼児教育」が86%と高い割合である。</li> <li>・「生徒は学校生活を楽しく、充実していると感じている」の回答は昨年より8%増加して88%に達しており、生徒の回答と一致する。</li> <li>・女子校に求められる「生徒を犯罪や事故から守る安全教育の充実が図られている」の回答は4%増加して86%で高い評価である。</li> <li>・肯定的な回答は全体では50%を下回るものはなかったが、コース別では唯一「キャリア特進」が「学習と部活動が両立」で37%と低い。</li> <li>・教育目標の一つである国際教育について、「学校はグローバル化に対応して国際教育を進めている」が昨年の71%から80%に増加した。</li> </ul> <p>○アンケート結果の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒及び保護者とも、5コースの教育内容及び本校の特色をよく理解していただいております、学びの満足度も高い。毎年、肯定意見は増加の傾向にある。学校の努力が一定の成果につながっている。</li> <li>・一昨年から学校の特色として国際教育を柱とする「グローバルなキャリア教育」については、保護者の理解は大幅に進み、今年9%増加して80%に達した。保護者の本校の国際教育に対する期待度も大きくなっている。</li> <li>・すべての項目で肯定意見が大きく上回っているが、改善の余地があるものとして、「学校からの通信や文書などで、学校の様子を家庭に伝えること」「教員の進める授業への更なる工夫」などがあげられる。次年度、全教室にモニターを設置してICTを使った学習や、生徒主体のアクティブラーニングも積極的に導入する。</li> </ul> | <p>一方、生徒の学力向上に関わる内容「授業改善等について」は努力すべき余地がある。とりわけ、成績優秀者への更なる学力向上に向けた施策を検討する余地がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特色、各コースの学び、進路保障等について、保護者の理解は他校に比べて、突出して高い。本校へ期待して入学してくる生徒・保護者が90%近いのは、他の私立高校(公立併願が多い中)では見られない数字である。受験において、専願受験が多い女子校という結果を反映している。この状況を維持するよう、努める必要がある。</li> <li>・このような生徒アンケートを実施した場合、そのアンケート結果の活用について生徒に報告することも大切。アンケートの結果、このように改善できたということを生徒に伝える必要がある。</li> <li>・現在の特色である国際教育は、生徒のニーズにあったものであり、多くの生徒が海外研修に応募するのは、学校力が高い証拠である。また、放課後の英会話教室や、次年度実施予定の成蹊ゼミなど、学校が進めている学びの充実はたいへん評価できる。</li> <li>・これらの突出した国際教育や学力向上の取組みをもっと外部に発信すべきである。</li> <li>・次年度全教室にTVモニターの設置を計画していることから、学校を挙げて授業でのICT活用への取組みを更に強化すべきで、その成果を発信して広報につなげるべきである。</li> </ul> <p>○学校力向上に向けた新規取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生向け入学前学習のLINESドリルや、1年生の中学内容の復習である成蹊ゼミについては、高く評価された。円滑な実施が大切である。</li> <li>・評価育成システムの本格実施が進み、教員の力量を高める努力こそ、学校力の向上に繋がる。教員組織体制の要となる主幹・副主幹の設置と活用は、大規模校になれば当然重要な役割を担うことになる。</li> </ul> |
|--|---|

### 3 中長期の目標と、本年度の取組内容及び自己評価

| 目標            | 今年度の重点目標  | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標  | 自己評価   |
|---------------|---|---|---|--|
| 1<br>学校教育力の向上 | (1) 学力向上に向けた教員への指導力強化対策<br>ア 教員の評価育成制度の導入4年目にあたり、学ぶ力の育成に向けた、PDCAサイクルでの自己点検・自己評価の充実を図る。<br>イ 授業公開・研究授業を積極的に実施し、指導力の向上を図る。<br>ウ 保護者の授業評価を積極的に取り入れる。 | ア 年度当初の校長の示す教育目標に沿って、教員各自が教育目標を設定し、PDCAサイクルに基づいて、日常的な振り返りと授業点検を行う。<br>イ 日常的な教科指導の振り返りに管理職の関わりを深める。また、全教科で授業公開・研究授業を積極的に実施し、授業点検を進める。<br>ウ 保護者の学校評価アンケートで、授業についての評価を積極的に活用するほか、年2回の公開授業週間への保護者の参加を推奨する。授業への関心を高めていただき、併せて教員の授業評価も行う。 | ア 全教員を対象に評価育成制度への円滑な実施<br>イ 授業公開の実施<br>研究授業の実施回数と成果<br>ウ 授業評価アンケート、学校評価アンケートの結果 | ア 評価育成制度での自己点検制度は、全教員対象に円滑に実施できた。<br>イ 授業公開週間の授業観察者は、保護者及び教員の参加数が約2割増加。また、全教科で研究授業を実施。研究授業後の協議と反省会の内容も質的に向上できた。<br>ウ 授業評価アンケートの結果は、ネットで公開するほか、学校評議会の議題とした。各コース別の課題が鮮明になり、今後の発展に寄与するものであった。                               |
|               | (2) 学力の定着に向けた教科指導の充実<br>ア 学習進度の遅い生徒への基礎基本の教科指導の充実<br>イ 成績優秀者への、更なる発展的学習の充実  | ア 従前、個々の教員が授業の中で見出した学習進度の遅い生徒に対して、定期考査前の放課後や長期休業日を活用して、個別対応で補習等を実施する。<br>イ 希望する進路先に必要な学力保障を行うため、長期休業日での、外部予備校等の補習学習を充実させるほか、個別指導の充実をはかる。  | ア 生徒の成績分布と学力不振生徒数<br>イ 成績優秀生徒数の増減、外部模試での偏差値                                     | ア 個々の教員レベルでは、よくがんばっているが、学校全体として組織的な対応は不十分。次年度、新たなシステムとして入学前学習のLINESドリルを導入する。1年生で成績不振なものは、放課後の「成蹊ゼミ」を開講して個別対応することとした。<br>イ 進路に応じて個別対応を充実した他、成績優秀者への奨学金付き海外研修の優先枠配置など、褒賞制度を充実した。   |
|               | (3) 人間力の育成<br>ア 人権教育の充実<br><br>イ いじめ防止  | ア LHRでの人権教育をはじめ、すべての教科で豊かな人権感覚を育む取組みを積極的に進める。<br><br>イ 「いじめ防止基本方針」に基づき、年2回の全生徒への「いじめアンケート」を実施し、生徒の状況把握を的確に進め、迅速かつ適切な対応を図る。  | ア 人権HRや全校朝礼での講話等での実施回数<br><br>イ いじめ防止アンケートの実施結果と活用状況                            | ア 身体障がい乗り越えたオリンピック選手による人権研修の他、月はじめの全校朝礼で校長講話、生徒指導部長訓話の中で、人権教育の指導を継続した。<br>学校設定科目に本年度から、1年キャリア進学で「ホスピタリティ」を開講、心の成長として福祉マインドの育成を図った。<br>イ 「いじめ防止基本方針」に基づき、年2回の「いじめアンケート」を実施した。この結果、未然防止に役立ち、平成27年度に続いて平成28年度のいじめ件数はゼロであった。 |

|                       |   |   |  |  |
|-----------------------|---|---|--|--|
| 1<br>学校教育力の向上         | (4) グローバル教育の推進とユネスコスクールの加入<br>ア 海外研修・国際交流の拡大<br>イ ユネスコスクールへ加盟<br>ウ 短期留学生の受け入れ | ア 本年度よりクラス単位の全コース海外修学旅行を実施する。新規事業として台湾国際交流を実施して年2回の相互交流を行い、国際教育を推進する。<br>イ 世界中の小・中・高校 10,000校が加盟するユネスコスクールに加盟申請を行う。<br>ウ 本年度は3名(昨年は1名)のアメリカからの短期留学生を受け入れ、本校の国際教育の充実を図る。 | ア 海外研修の拡大の成否と、生徒の修学旅行のアンケート分析<br>イ ユネスコスクール加盟審査結果<br>ウ 受け入れる短期留学生の数と受け入れ後の成果 | ア 3月、2年全コースでオーストラリア海外修学旅行を実施。生徒の海外研修の満足度は大変高く、9割の生徒が評価した。<br>新規の台湾国際交流で、6月と12月に相互訪問し、国際交流事業として成功した。<br>イ 府立大学のユネスコ委員井伊先生の支援を受けて国内審査を通過。現在パリ本部に申請中。本年度中に認可される予定。<br>ウ アメリカから3名の留学生を受け入れ、受け入れクラスでの国際交流が深まった。 |
|                       | (5) 使える英語力の向上<br>ア 放課後のベルリッツ英会話の充実<br>イ 英語検定に代わるGTECの実施<br>ウ NET活用の充実         | ア スピーキング、リスニングの強化をめざして、ベルリッツ社による無償英会話教室の充実を図る。<br>イ 3年生を除く1年、2年の生徒で英検に代わって、GTECの検定実施を検討する。<br>ウ NET(外国人英語教員)による少人数授業の充実を図る。   | ア 英会話参加生徒数と出席状況<br>イ GTEC実施の有無<br>ウ 生徒授業評価アンケート結果                            | ア 5講座100名に拡大し、希望生徒は260名。<br>イ 予定どおり1年、2年生でGTECを円滑に実施。生徒の英語力の実態把握に役立つ。<br>ウ モーガン先生の少人数制英会話学習は、生徒から高い評価であった。次年度外国人教員を増員する。   |
|                       | (6) 学園内高大・高短連携と内部進学率の向上<br>ア 学園内の高大・高短連携授業数の拡大<br>イ 内部進学率の向上                  | ア キャリア進学コース及び美術科での連携授業の質的、量的拡大を図り、他コースでの積極的な連携授業を企画、実施する。<br>イ 内部進学率60%を目標に、進路指導の充実を図る。   | ア 連携授業数と生徒の授業評価アンケート結果<br>イ 内部進学率  | ア 平成28年度の学園内連携授業は53講座で実施できた。他の講演等も含め15%増となる。生徒アンケートの評価も高くなっている。<br>イ 本年度の内部進学率は55%で、まだ努力の必要がある。  |
| 2<br>コースの特色化と生徒募集力の維持 | (1) 募集の強化<br>ア 入学者の確保に向けた取り組みの更なる充実<br>イ 募集広報戦略の強化と、広報の充実を図る。                 | ア 生徒募集の強化策として、オープンスクールでは全教職員体制を徹底する。隔年現象での減少量を最小に抑え、生徒のプレゼン力の向上、新規DVDの作成等、内容の向上と新規の募集対策を工夫する。<br>イ 5コース説明のレベルアップのために、コース別説明を点検する全体研修を実施する。                              | ア 平成29年度の入学者目標は500名以上<br>イ 新しいDVD、TV放映等の新規企画の実施有無                            | ア 昨年は近年最大の688名が入学したが、今年は隔年現象を最小に抑え、目標を上回る549名が入学。ここ数年、府内私立女子校ではNo.1の入学者を維持した。<br>イ 新たなパンフレットを作成、2社でTV放映。また、ミスタードーナツと提携。  |
|                       | (2) コースの特色化<br>ア 各コースで教育内容の充実と募集戦略の強化を図る。<br>イ 専門学科の美術科の円滑な立ち上げ               | ア 各コースでの特色ある取り組みをさらに鮮明化し、中学生とその関係者への情報発信力の強化に努める。また併設大学との連携型教育を充実。<br>イ 専門学科の美術科の立ち上げを円滑に行い、施設・設備の拡充に努める。   | ア コースの特色を鮮明にした取組内容<br>イ 美術科の運営   | ア コース説明のパンフを新たに作成。コースの特色あるイベントも新規実施した。<br>イ 昨年は過去最大の119名が入学したが、新デザイン棟も6月に完成するなど、生徒増の中でも円滑な学科立ち上げができた。  |
| 3<br>学校運営             | (1) ミドルリーダーの育成<br>主幹、副主幹を中心とする中間管理職の役割を明確にし、管理職とコース主任・部主任との連携の下、学校運営を円滑に行う。   | 主幹、副主幹の職務を職員会議で明確化し、各コース主任・分掌長での業務分担を整理する。また、各ポストの教員と管理職との連携を密に行い、管理職とコース主任・部主任との協議の場である校務運営会議を活用する。校長のマネジメント力を発現できる組織体制をめざす。   | 各ポスト教員との個別相談や面談機会の回数   | 各ポスト教員の校長室への個別案件等の相談回数等は、1日あたり平均5.5件で、前年比の30%増となった。<br>学校経営は、校長・副校長のリーダーシップのもとで安定化の傾向にある。  |
|                       | (2) 会議の効率的な運用<br>職員会議をはじめとして、各種委員会の機能の充実と、効率性の向上を図る。                          | 生徒との対応時間の確保のため、職員会議をはじめとして校務分掌会議、コース会議、その他各種委員会の会議は、最小回数かつ最短時間で効率的な会議をめざす。  | 会議の効率化の状況<br>会議の実施回数<br>平均の会議時間  | 会議の実施回数は前年度より減少の傾向。職員会議は1時間以内になっているが、コースや部の会議については、まだ改善の余地がある。   |

#### 4 今後の改善方策

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 1 学習指導の充実             | ① 平成29年度から入学前教育として自宅学習システムのLINESドリルを実施し、1年生対象の放課後の基礎復習講座「成蹊ゼミ」を国・数・英で実施する。これらの効果検証を行い、日常の教科指導に繋げていく。その他、日々の学習指導の強化に向けた研究授業の充実や、評価育成制度にもとづく、管理職の授業評価を更に充実させる必要がある。<br>② 推奨している資格検定の漢字検定、英語検定(平成28年よりGTECに変更)、秘書検定の3つの柱を軸として、全生徒の個別目標に沿った検定合格をめざす指導を強化する。とりわけ、使える英語力の充実として、2年生全クラスでのNET(外国人英語教員)による少人数制授業に加えて、放課後のベルリッツ社による英会話教室5講座(定員100名)、TOEICの講習、GTECのスピーキングテストなどの実施も推奨する。 |
| 2 グローバル教育の充実          | ① 本校のグローバル化の強化を今後の特色の柱に加え、積極的な海外研修事業の展開と充実を図る。その主体として国際教育部の役割を明確化し、担当教員のスキルアップと、全教職員の国際教育に対する共通理解を深めることとする。<br>② 昨年度からクラス単位の海外修学旅行に変更した。今後も全コースの海外修学旅行を実施するにあたり、安全安心な海外の行き先について、積極的な情報収集と詳細な検討を行う必要がある。<br>③ 現在、申請中のユネスコスクールの加盟について、認可後の積極的なESD教育の取り組みを検討、実施する。  |
| 3 コースの特色化と生徒募集力の維持向上  | ① 各コースの特色ある教育活動を更に充実し、生徒の自主性を育み、生徒の学習意欲の向上をめざしたい。<br>② 生徒募集の向上には募集企画室の室員だけでなく、全教職員の対応力等のスキルアップが求められる。本年度も全教職員を対象とした募集対策の研修を強化し、500名の生徒募集に向けて、最善を尽くす。また、本校のHPをスマホ対応に充実し、学校の情報発信力を高める。   |
| 4 校長のマネジメントによる学校運営の確立 | ① 中間管理職(主幹、副主幹)を含む各リーダーの意思統一と共通した学校経営方針の定着、安定的な学校運営をめざす。<br>② 学校経営方針の中で、特に内部進学率60%の目標について、各リーダーと目標達成に向けた取り組みの検討、担任との共通理解を積極的に進める。  |